

か さい み くりや
葛 西 御 厨

御厨とは

御厨みくりやとは、台所を意味する「厨くりや」の敬語的な表現です。神々に献けんじる供物くもつを調達する建物のことで、それが転じて神社の供物を取る場所、すなわち土地そのものを示す言葉になりました。

平安時代の終り頃、地方の豪族が、国から課せられる負担を免れるため、また他の在地勢力に対抗するため、中央で政治的・社会的に権力をもった貴族や有力な寺社きしんに寄進した私有地しょうえんを「荘園」といいました。寄進先に年貢の一部を納める代わりに、国や郡役人の田地への立ち入りを拒否できたのです。その際、土地の寄進先が伊勢神宮いせじんぐう（まれに賀茂神社かも）の場合、「御厨」とよびました。

葛西御厨の成立

古代の国郡制により誕生した下総国葛飾郡しもうさのくににかっしかぐんは、平安時代の末頃に三分割され、北部は下河辺庄しもこうべのしょうという広大な荘園に、南部は現在の江戸川を境にして、東側が千葉氏の支配する葛東郡に、江戸川区のほか葛飾区・江東区・墨田区を含む西側が葛西郡になりました。

そのころ、葛西の郡域には桓武平氏かんむへいしから分かれた豊島葛西氏としまけんきゆうが進出し、建久年間（1190～1199）葛西清重かさいきよしげによってこの葛西郡が伊勢神宮に寄進され、葛西御厨が成立したと推測されています。

そのほか中世の関東では、伊勢神宮の御厨として、相模の大庭御厨さがみおおほみくりや、下総北部の相馬御厨そうまみくりやが知られています。



葛西御厨の範囲

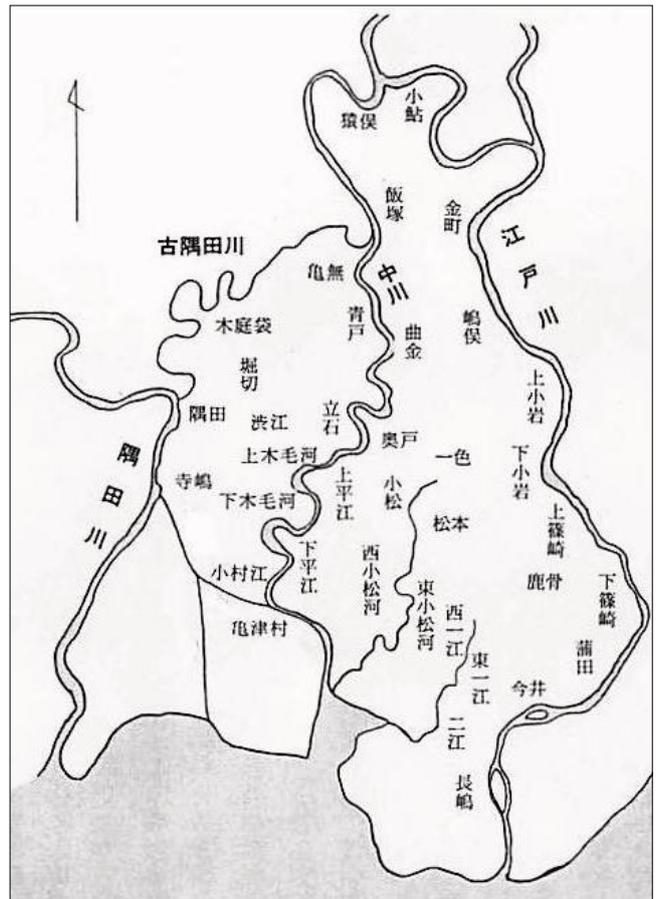
『葛西御厨注文』にみる中世の江戸川区

葛西御厨は葛西氏による支配が、鎌倉時代から南北朝時代へと続きました。

その頃の葛西一族に関しては、下総いちのみやの一宮である香取神社かとりじんじゃの21年ごとの造営ぞうえいに際して千葉氏と葛西氏が交互に負担した記録や、篠崎の一部が中山なかやま法華経寺ほけきょうじの所領になったという文書にその動向をうかがうことができます。

応永5年(1398)の『葛西御厨田数注文』によると、葛西御厨には37の郷と田数1233町7段がありました。「注文」とは、領地の数量や種類の詳細を書いた報告書のことです。応永5年は、葛西御厨の支配が葛西氏から関東管領上杉氏かんとうかんれいうえすぎしへと移り、室町幕府の鎌倉府直轄領となっていく頃でした。『葛西御厨田数注文』に記載されている郷のうち、現在の江戸川区域は次の18です。

- 荒張あらはり(新堀にいほり)
- 長嶋(東葛西・南葛西)
- 下小岩しもこいわ(東小岩・南小岩)
- 鹿骨ししほね
- 二江にのえ(二之江・春江・西瑞江・江戸川)
- 今井(江戸川・西瑞江)
- 東一江ひがしいちのえ(一之江・春江)
- 上小岩かみこいわ(西小岩・北小岩)
- 上篠崎(北篠崎・上篠崎・篠崎)
- 下篠崎(南篠崎・下篠崎・篠崎)
- 松本(松本・中央・大杉)
- 東小松河(東小松川)
- 一色いっしき(上一色かみいっしき・本一色ほんいっしき)
- 西小松河(西小松川)
- 蒲田しもかまた(下鎌田・南篠崎)
- 西一江にしいちのえ(西一之江)
- 中曽根(小岩付近か?)
- 下平江しもひらえ(平井)



『葛西御厨田数注文』 応永5年(1398)の郷名

江戸川区郷土資料室